

宮交ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 菊池 克頼

## 2019年度 上半期（4月～9月累計） 業績に関するお知らせ【連結】

表記の件、2019年度上半期（4月から9月まで）連結ベースでの業績について、下記のとおりお知らせ申し上げます。

### 記

#### 1. 2019年度 上半期業績の状況

##### （1）【連結】グループ業績

県内経済が緩やかな改善を続ける中、当社グループは今年度を“確実な成長”の継続とグループの将来を築く“事業基盤”を確立する期間と位置づけ、「時代の変化に合わせた将来への土台づくり」、「利益率向上による財務体質の強化」、「安心と信頼の確立」を基本戦略とした「2019年度～2021年度3ヶ年経営計画」策定し、増収とコスト削減という二律背反の施策や、人財の確保定着を目的とした戦略を推し進めてまいりました。また自動運転やMaaS（モビリティ アズ ア サービス）など新技術の活用検討や、安心信頼の基礎固めとしてコンプライアンスの徹底にも取り組んできました。

今期はGWの大型連休や「ISAワールドサーフィンゲーム」、「ワールドカップラグビー」などが増収要因となりましたが、インバウンド減少や、運転士不足によるバス・タクシーの稼働減による影響を大きく受けました。

そのような環境下、2019年度上半期の主な取り組みとしては、宮崎交通では、2020年度秋の開業を予定している宮崎駅西口「JR宮交ツインビル」の工事に着工し、開業に向けた本格的な準備をスタートさせました。

宮崎観光ホテルでは、西館の耐震工事及び客室改装を7月に完了させ、更なる収益向上に向けた環境を整えました。宮交ショップ&レストランでは、6月1日より「山之口サービスエリア」の運営を開始し、イベントリスクに左右されない事業に新たに着手しました。

また、グループ全体で消費税増税に向けた準備をおこなうとともに、一部事業においては経済産業省の実施するキャッシュレス・ポイント還元事業の申請をおこないました。

以上の結果、今期の上半期の業績は、連結ベースで営業収入87億73百万円（前年比100.3%）、営業利益3億10百万円（同167.9%）、親会社株主に帰属する中間純利益2億37百万円（同90.0%）となり、増収増益となりました。

(単位：百万円)

【連結グループ業績】	2019年度 上半期	2018年度 上半期	前年比較	前年比 (%)
営業収入	8,773	8,746	27	100.3
営業費用	8,463	8,561	△98	98.9
営業損益	310	184	125	167.9
経常損益	262	161	101	162.6
親会社株主に帰属する中間純利益	237	263	△26	90.0
償却前営業利益	728	623	104	116.8

※連結子会社（7社）…宮崎交通株、宮交タクシー株、(株)宮崎観光ホテル、青島リゾート株、宮崎ビルサービス株、宮交ショップアンドレストラン株  
宮交都市クリエイト株

※持分法適用会社（2社）…宮崎空港ビル株、宮崎パブリックホール株

※記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

## (2) 事業部門別業績（連結ベース）

(単位：百万円)

事業部門		営業収入	前年比較	前年比 (%)	営業利益	前年比較	前年比 (%)
宮崎交通株	バス事業	2,673	△38	98.6	77	0	99.5
	旅行事業	305	5	101.8	23	42	-
	航空事業	469	0	100.0	142	△1	98.7
	保険事業	76	0	100.9	23	△1	94.1
	こどものくに事業	21	0	103.3	△13	0	-
	熱源センター事業	222	91	169.8	23	2	112.9
	不動産事業	199	△13	93.7	69	0	101.2
	本社	27	0	101.4	0	0	-
小計	3,995	47	101.2	346	42	114.0	
宮交タクシー株		965	△29	97.1	6	△3	68.6
(株)宮崎観光ホテル		1,363	△88	93.9	△50	63	-
青島リゾート株		784	△18	97.6	10	△12	45.5
宮交ショップアンドレストラン株		1,510	54	103.7	△42	41	-
宮崎ビルサービス株		605	33	105.9	△12	△4	-
宮交ホールディングス株		189	4	102.3	1	0	100.0
連結消去		△641	24	-	50	△2	-
連結売上高合計		8,773	27	100.3	310	125	167.9

注1) 上記数値は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ① 宮崎交通㈱ バス事業

一般路線バスでは、乗車人員 4,850 千人（前年比 98.9%）、営業収入 18 億 58 百万円（同 100.8%）、営業利益 16 百万円（731.9%）となりました。

生産量の調整で走行キロを前年比 4.3%削減しましたが、乗車人員は 1.1%減にとどまり、定期収入も前年並みを確保できたため、生産性は向上しました。あわせて、イベントやコンサートなどの臨時バス運行のほか、乗り方教室や利用促進イベントへの参加など啓蒙活動にも取り組みました。

経費面では、燃料費が 6 月以降は昨年を下回る水準で推移しましたが、為替や社会情勢の影響を受けやすいため、丁寧な運転の実施など省エネ対策に継続して取り組みました。

高速バスでは、乗車人員 166 千人（同 99.5%）、営業収入 5 億 18 百万円（同 99.1%）、営業利益 45 百万円（同 83.2%）となりました。延岡～福岡線の所要時間短縮や福岡空港乗り入れのほか、カレンダー運賃や割引運賃設定など、お客様の利便性向上に取り組みました。

シェアサイクルでは、営業収入 803 千円（同 461.5%）、営業損失 2 百万円となりました。当初の計画 200 台の自転車を宮崎市内を中心に配置し、事業開始から 1 年を経過して利用回数は徐々に上がってきております。

貸切バスでは、営業収入 2 億 52 百万円（同 84.2%）、営業利益 10 百万円（同 51.3%）となりました。国内外のクルーズ船は 12 隻入港（前年 13 隻）にとどまるも、貸切バスのシャトルバス輸送を獲得しました。7 月には「AP アジアチャンピオンシップ・ポニーベースボール大会」、「全国高等学校総合体育大会」、9 月には、「ISA ワールドサーフィンゲームス」等の輸送に取り組みました。

広告宣伝では、営業収入 43 百万円（同 99.0%）営業利益 8 百万円（同 92.5%）となりました。ラッピングバスを主として、広告全般にわたり広告代理店を中心に行政、公共機関への営業展開を行いました。

バス事業全体では、営業収入 26 億 73 百万円（同 98.6%）、営業利益 77 百万円（同 99.5%）と減収減益となりました。

下期の取り組みとしましては、各事業の施策の確実な実施はもちろんのこと、慢性化する運転士不足の解消に向けて、運転体験会（採用説明会）の毎月実施などを継続してまいります。

## ② 宮崎交通㈱ 旅行事業

国内旅行では、GW が 10 連休であったことやバス利用商品の柱である「スペシャルバスツアー」の集客増により実績は好調に推移しました。加えて 6 月には宮崎発着の北海道（旭川）へのチャーター便を利用したツアーを企画・販売し、更なる収益の確保に努めました。

一方、海外旅行では、宮崎発着の国際定期便を中心に企画・販売しましたが、日韓関係の悪化により復調傾向であった韓国への渡航者は 8 月以降、伸び悩んでおります。しかしながら GW にチャイナエアライン利用の台北臨時便ツアーを完売し、上期は前年を上回る結果となりました。

旅行事業では、営業収入は 3 億 5 百万円（同 101.8%）、営業利益は 23 百万円と増収増益となりました。

下期の取り組みとしましては、国内旅行はバス・飛行機・カーフェリー利用の「季節感」「トレンド」を意識したコースや話題性の高い「イベント」・「観劇」ツアーなど顧客ニーズを意識した商品を揃え、更なる増収を目指します。海外旅行は、宮崎空港発着の国際定期便利用の韓国、台湾に加え、他方面への企画商品を充実させ、県の海外旅行補助金制度をアピールし、海外旅行マインドを喚起し

てまいります。

### ③ 宮崎交通㈱ 航空事業

航空事業における取扱旅客数は、宮崎空港全体で国内線 1,609 千人（同 104.4%） 国際線 40 千人（同 59.8%）となり前年を上回りました。当社受託の取扱旅客数は、全日空 531,339 名（同 99.4%）、ソラシドエア 345,052 名（同 99.0%）ピーチ・アビエーション 61,135 名（同 103.2%）、オリエンタルエアブリッジ 104,689 名（同 129.0%）となっています。そのほか、作業安全、定時運航、接客対応など品質の維持向上などに努めてまいりました。

航空事業では、営業収入 4 億 69 百万円（同 100.0%）、営業利益 1 億 42 百万円（同 98.7%）と減収減益となりました。

下期の取り組みとしましては、引き続き事業部全体で業務品質の向上に取り組んでまいります。

### ④ 宮崎交通㈱ こどものくに事業

こどものくにでは、園内芝生広場の活用を中心に大型ライブイベント「FREEDOM」や「チャリティーウォーク」、「みやざき青島国際ビール祭り」、新規イベント「おおきなえ」の誘致のほか、国土交通省のガーデンツーリズム（庭園間交流連携促進計画）に認定登録されたバラ園の庭園維持管理に努めてまいりました。

宮崎市青島パークゴルフ場では、「手ぶらバーベキューセットプラン」や夏場の「ナイトパークゴルフ」などに取り組んだほか、各種競技大会の開催により、来場者数は 13 千人（同 103.8%）となりました。

こどものくに事業全体では、営業収入 21 百万円（同 103.3%）、営業損失 13 百万円となりました。

下期の取り組みとしましては、引き続きイベントの誘致を積極的に進め、「ANAホリデイ・インリゾート宮崎」との連携、園内ガーデンの維持・拡大に努めてまいります。また、宮崎市青島パークゴルフ場では冬場を中心に海外（韓国）からの誘客に努めてまいります。

### ⑤ 宮崎交通㈱ 保険事業

生命保険では、終身保険や定期保険などの個人向け死亡保険販売が前期を上回り好調に推移しました。また、既契約者への個別訪問や自社DM活用により、リニューアルしたがん保険を積極的に販売したため、前期以上の収入を確保することができました。

損害保険では、自動車保険販売を一層強化するとともに、法人向け商品の販売に注力し積極的に取り組んだ結果、前年並みに推移しました。

保険事業では、営業収入 76 百万円（同 100.9%）、営業利益 23 百万円（同 94.1%）と増収減益となりました。

下期の取り組みとしましては、顧客ニーズに幅広く応えるため、商品提案力を向上させると共に契約者サポート体制の充実と保全サービス力の強化に努めてまいります。

### ⑥ 宮崎交通㈱ 熱源センター事業

熱供給事業では、外気温の低下による影響がありましたが、大型商業施設の新店舗オープンによる需要増にともない、増収となりました。そのほか、同施設の共同リニューアル工事や、宮交グル



ープの設備更新工事を受注しました。

熱源センター事業では、営業収入 2 億 22 百万円（同 169.8%）、営業利益 23 百万円（同 112.9%）と増収増益となりました。

下期の取り組みとしましては、引き続き大型商業施設リニューアル工事の受注と施工を継続し、また、宮交グループへの積極的な営業活動と来期以降も踏まえた設備改修提案や、来期の入札物件に向けた情報収集をおこない、収益拡大に努めてまいります。

#### ⑦ 宮崎交通㈱ 不動産事業

不動産事業では、宮崎駅西口開発に取り組み、JR九州と共同で“JR宮交ツインビル”の建設に着手し、“アミュプラザ宮崎”として2020年秋の開業を目指しております。FC事業（ウェンディーズファーストキッチン）では、販売強化並びに経費削減に取り組んでまいりました。また、その他所有する不動産へのテナント誘致や施設の維持管理を実施いたしました。

不動産事業全体では、営業収入 1 億 99 百万円（同 93.7%）、営業利益 69 百万円（同 101.2%）と減収増益となりました。

下期の取り組みとしましては、引き続き宮崎駅西口開発に取り組む他、所有する不動産の再開発、賃貸物件の価値向上や維持管理を継続的に行うと共に、FC事業では季節商品の販売強化や経費の更なる見直しを実施し、収益確保に努めてまいります。

#### ⑧ 宮交タクシー㈱

タクシー事業では、実働可能乗務員が 28 名減少（昨年同期比）し、配車可能な車両が大幅に減少しました。乗務員の確保が困難ななか、稼働向上に向け、多客期の集中配車やイベント等の事前予約を積極的におこないました。

また、車両の減車（20 台）、設備投資の見直し、事故費の削減などのコスト削減に努めました。

貸切バス事業では、大型バス 2 台を購入し、お客様の選択肢を広げるとともに、入札等による支援学校のスクールバス、自治体のコミュニティバス等の請負事業による収入確保に努めました。

宮交タクシーでは、営業収入 9 億 65 百万円（同 97.1%）、営業利益 6 百万円（同 68.6%）と減収減益となりました。

下期の取り組みとしましては、CS向上のための従業員教育やQRコードによるキャッシュレス決済の導入により、お客様に選ばれるタクシー会社を目指します。また、乗務員確保については、ハローワークの説明会に加え、定期的な説明会を実施する等、更なる採用強化に努めてまいります。

#### ⑨ ㈱宮崎観光ホテル

宿泊部門では、4月～7月末にかけて行った「西館耐震工事・西館客室改装工事」による客室クローズ（76室）の影響もありましたが、WEB集客が好調で、人員・収入は共に前期を上回りました。バンケット部門では、会議、会食のうち特に会食利用が減少し、前年を下回りました。婚礼部門では、実施件数ではバンケットが不調でしたが、レストランが好調で、前年を上回りました。レストラン部門では、昨年6月に増床したレストラン一木一草が順調に収入を伸ばしています。

設備については、「西館耐震工事の3期目」が完了し、2017～2019年の3ヶ年にわたる耐震改装工事が全て完了しました。



## 宮交グループ

宮崎観光ホテルでは、営業収入 13 億 63 百万円（同 93.9%）、営業損失 50 百万円となりました。

下期の取り組みとしましては、宿泊部門では、西館の単価を維持しながら、多客期と閑散期のメリハリのついた価格設定により、収入と利益の最大化を図ります。バンケット部門では、お客様のプランに沿ったより良い提案をおこない、受注件数の増加を図ります。レストラン部門では、コスト削減や多様な価格設定により、利益率の向上に努めます。婚礼部門では、バンケットの受注強化のため、お客様のニーズにあったプランを造成し、販売強化を図ります。

### ⑩ 青島リゾート㈱（ANA ホリデイ・イン リゾート 宮崎）

宿泊部門では、団体客のインバウンド（香港・台湾・韓国）が大幅に減少しましたが、インターハイや「ISAワールドサーフィンゲームス」などの大型団体の受入（65 千名集客）もあり、一室当りの客室単価も上昇しました。レストラン部門では、新メニューの設定や企画ランチの開催、レストランWeb予約システム等による外来販促の実施に加え、温泉やSPAと組み合わせた独自の商品開発に努めました。婚礼部門では、フェアや相談会のこまめな開催と同時に、魅力ある新プランや青島神社神前式の販売強化、セールスツール（パンフレット・HP）の充実を図りました。アクティビティ部門では、サーフィン・ボディボード・カヌーツアーの販売と人気のキッズボルダリングとスワンボート、修学旅行のマリン体験、期間限定「ナイトプール」など独自性のあるプログラムを実施いたしました。

青島リゾートでは、営業収入 7 億 84 百万円（同 97.6%）、営業利益 10 百万円（同 45.5%）と減収減益となりました。

下期の取り組みとしましては、スポーツキャンプ合宿・MICEの受注と滞在リゾートとしての販売促進、無料スマートフォン「ハンディ」・レストランシステムを駆使した外来客の獲得、婚礼新企画商品の販売、「こどものくに」や青島地区との連携強化に努めてまいります。

### ⑪ 宮交ショップアンドレストラン㈱

大型連休のGWにより、実績は好調に推移しました。また、神社に隣接する2施設の「青島屋」「三ツ和荘」については、新元号施行日にあわせた参拝や御朱印を求めるお客様が多かった事も好調の要因となりました。また、春に開催されます生駒高原ポピーまつりでは県内外から多くの来園客がお越しになりました。

春に販売スタートしたPB商品「本格宮崎辛麺」につきましては、各種イベント会場や主要道の駅、サービスエリア、宮崎ブーケンビリア空港などで試食販売を実施し、販売促進に努めました。

また、「地域の力になるサービスエリア」をコンセプトとした山之口サービスエリア上下線の運営が6月からスタートしました。

宮交ショップアンドレストランでは、営業収入 15 億 10 百万円（同 103.7%）、営業損失 42 百万円となりました。

下期の取り組みとしましては、県内外へ販売する商品企画のマーケティングを実践し、組織力で新規販路拡大への営業強化や流通チャネルの構築をおこない、売上確保に努めてまいります。

「青島屋」「三ツ和荘」に関しては、好調な運営の継続に加え、収益の最大化を目指します。また、11月から2月末まで期間営業する宮崎・鹿児島両県唯一の「えびの高原屋外アイススケート場」は、えびの高原復興のきっかけになるよう取り組んでまいります。国民宿舎の「ホテル高

千穂」「えびの高原荘」においては、国内、海外O T Aの販促ツール活用による予約獲得を行います。シーズンを迎える温泉施設においては、情報誌への掲載を継続し、イベント等の集客プログラムの実践や、優待日設定による利用促進を図り、収益改善に努めてまいります。

## ⑫ 宮崎ビルサービス㈱

収入については、不採算物件の見直しによる定期清掃や、竣工清掃が減少したものの、新規指定管理の受託により前年を上回ることができました。

経費については、最低賃金の上昇による人件費や適正人員確保のための外部委託、新規指定管理関連コストにより経費増となりました。

宮崎ビルサービスでは、営業収入 6 億 5 百万円（同 105.9%）営業損失 12 百万円と増収減益となりました。

下期の取り組みとしましては、人件費上昇に伴う管理物件の価格見直しや、不採算物件の整理をおこない、収益の確保に取り組んでまいります。また、品質向上のための研修や資格取得を推進する一方、企業説明会での新卒者獲得や清掃体験会をおこなうなど、積極的な求人活動に努め、引き続き人材確保にも取り組んでまいります。併せて、諸経費・外注費においては、さらなる削減により、経費の圧縮に努めてまいります。

## 2. 有利子負債の状況

2019年 4月 1日現在残高	136億94百万円
2019年 9月30日現在残高	144億54百万円
差 引	7億60百万円の増加

## 3. 下半期における主な事項

下半期は、リコーカップをはじめ、従来からのプロ野球やJリーグのキャンプなど、多くのスポーツイベントが予定されており、ホテルや貸切バスなどグループ一丸となって収益確保に努めてまいります。

また、宮崎駅西口「JR宮交ツインビル」共同開発の継続とともに、A I等の先端技術を活用した生産性向上に向けた取り組みの検討や、柔軟な働き方に対応する環境整備をおこない、将来の事業基盤を支える人財の確保定着に向けた戦略を推し進めてまいります。

#### 4. 通期の見通し

下半期におきましても、国際情勢によるインバウンド減少が継続するなどの厳しい経営環境が予想されますが、3ヶ年経営計画と各種施策を確実に実行し、全役職員一丸となって計画達成に向けて取り組んでまいります。

2019年度の通期の見込みは、以下のとおりでございます。

(単位：百万円)

【連結グループ業績見込】	2019年度 通期見込み	2018年度 実績	前年比較	前年比 (%)
営業収入	18,070	17,872	197	101.1
営業費用	17,215	17,135	80	100.5
営業損益	854	737	117	115.9
経常損益	727	614	113	118.4
親会社株主に帰属する当期純利益	622	750	△128	82.9
償却前営業利益	1,760	1,659	100	106.0

※2019年度 通期見込みは、9月までの実績値+見込値です。

※計数については、グループ会社8社ならびに持分法適用会社2社の連結値です。

以 上